

平成22年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	
21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。	
2 学校経営ビジョン	
(1) すべての生徒が安心して学習できる学校、安全に生活できる学校にする。 (2) 教師はよくわかる授業をし、生徒は真剣な態度で授業を受ける学校にする。 (3) 生徒に夢を持たせ、夢を育み、夢の実現に向けて歩ませ、全力でサポートする。 (4) 必要な常識、規範意識、基礎的な知識・技術を身につけさせる。 (5) 保護者や地域との協力・連携を深め、信頼される学校にする。	
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 授業の充実、授業態度の改善	授業態度は、授業チェック、巡視により若干の改善が見られたが、まだ不十分である。教師側も授業の質向上に向けた努力が必要である。授業態度を重視した評価を周知徹底し、自覚を醸成する。
(2) いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応	学校の基本方針が浸透し、いじめ、暴力行為は激減した。定期および随時のいじめ調査の実施と、いじめがあった場合、迅速な対応を継続する。
(3) 資格取得への意欲醸成と実績の向上	前年度の資格取得実績は最近5年間で最高であった。しかし、もっと系統的に計画し、緻密に指導すれば、生徒の意欲を高め、合格者数を増やす余地は多分にある。本校活性化のためにぜひ取り組むべき課題である。
(4) 人権・同和教育の充実	人権・同和教育に的を絞った講話の機会を増やして、生徒の意識を高め、職員の認識を深める。
(5) 校内の美化	全体的に教室、廊下、トイレ等の整美ができていない。清潔な学習環境は、教育を行うための前提である。生徒、職員の意識を高め、学校全体で取り組む必要がある。
(6) 高校入試の志願率の向上	昨年度、3科で定員割れした反省を踏まえて、体験入学、高校説明会等で魅力をPRする方法を改善し、中学校回りも積極的に行う。
(7) 部活動の活性化	魅力のある部活動と、実績の向上は、生徒に誇りと自信を持たせることにつながる。入部率も高めて、より充実した高校生活にさせる。また、中学生にとっては、本校に対する魅力が高まり、志願者数の増加にもつながる。
(8) 服装・頭髪の端正さの向上	徐々に良くなりつつあるがまだまだ不十分である。実効性のある指導態勢を整備する。

評価 A:十分達成している, B:おおむね達成している, C:やや不十分である, D:不十分である

5 総括表					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	評価	評価及びその理由
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	重点目標を知っている保護者や生徒の割合を70%以上にする。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と考えている保護者や生徒の割合を80%以上にする。	B	PTA総会、地区保護者会、役員会など機会あるごとに本年度の重点目標について説明した。保護者には学校の方針については理解してもらえた。生徒へも全校集会でたびたび説明をしたので生徒、保護者で65%の周知度になった。
		地域社会に信頼される学校づくりに向けた情報公開	高校入試志願率の向上 (今年度の1.2倍)	A	後期試験では定員の1.21倍の志願者があった。活躍する生徒の情報発信とともに体験入学、高校説明会でのPR、本校の教育内容の説明を中学校を積極的に訪問して行った。
教育	●学力向上	基礎学力の定着と数値目標の達成	県下一斉就職模試で工業系100番以内に20人(昨年9人)入ることを目標とする。 全国工業高校長協会主催標準テストにおいて、全科目で全国平均点を目指す。	B	工業模試では、昨年の2倍の生徒が100番以内に入ったものの、県下一斉模試では、昨年より2名増の11名に止まった。標準テストの全国平均点がまだ未発表であるが、昨年度より大幅に平均点がアップした科目もある。
		授業態度の改善	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、授業に対して積極的な姿勢で臨む態度を身につけさせる。	B	学習評価において授業態度を大幅に重視することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図ったことで、前年より改善は見られたが、まだ十分とはいえない。
活動	○進路指導	進路保障	生徒が主体的に進路を選択し、卒業までに進路先が100%決定できるように指導する。	B	佐賀大学への合格1名、唐津市役所、福岡県警へ各1名の採用はあったが、厳しい経済状況の中での就職内定は、98.5%であった。就職未定者2名は学校の紹介就職を希望せず、縁故就職を希望している。
		いじめや暴力行為の防止	いじめの早期解決と暴力行為をなくす。	A	いじめは0件。 暴力行為は昨年度と同数であったが、一昨年までと比較して非常に減少した。
心	○生徒指導	頭髪・服装指導の改善	頭髪・服装検査不合格者を昨年度より減少させ、さらに検査時以外の身だしなみを向上させる。	C	特別指導者が昨年度より増加した。 頭髪服装検査の不合格者は、ほぼ昨年と同数であった。全職員で生徒の意識と頭髪指導、制服の着こなしに対していっそう指導する必要がある。
		●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	体調不良による遅刻、早退、欠席の減数。	B
●心の教育	ボランティア活動への積極的参加	生徒会主催のボランティア活動への全員参加及び各種団体主催のボランティア活動へ10名程度の自主参加を目指す。	B	活動毎に参加者を募った。部活動や各種資格取得の為に十分な人数の参加者が集ることは難しかったが、前年度に比べて増えた。また少人数ではあったが、志が高い生徒達が積極的に参加し、活動現場での高い評価を得ていた。	

●は共通評価項目、○は独自評価項目

6 総合評価
生徒の授業に対する満足度は90%を超えるものの、まだ授業に対して積極的な姿勢で臨む態度は十分とはいえない。日頃の1時間、1時間の授業を充実させるとともに早期に生徒の進路意識を高めるための工夫、教師の授業力・指導力の向上に努める必要がある。資格取得の向上では、ジュニアマイスターのゴールドを6人、シルバーを14人が取得し、目標を十分達成することができた。さらに各種資格の合格者数を増やしたい。マナーの向上、挨拶や身だしなみ等については、いっそう指導していく必要がある。部活動においては、弓道で全国高校総体で個人2位、他に柔道男子90kg級県大会優勝、陸上競技でハンマー投げで県高校新記録を数度更新するとともに北九州大会で3位に入賞、バドミントンダブルスも全国大会出場を果たした。バドミントンは、団体でも九州大会出場を果たすことができた。

7 次年度への課題・改善策
進路指導については、生徒の夢を実現するため、第一志望入社試験の合格率向上、生徒の進路意識を高めるための工夫、夏季補習の改善、教師の進路指導力の向上に努め、職員一丸となって学校あげて指導していく必要がある。また、入学時から国立大学進学への意識を高める取組を行ってきたい。学力向上については教師相互の授業参観を行い授業研究をしたり、職員が切磋琢磨して分かりやすい授業展開をめざして改善していく必要がある。生徒指導については、全職員の協力態勢を作り規範意識の高揚のために道徳心の育成に取組み、服装頭髪やマナーの向上については日頃の地道な指導を行うことによって、今後さらにその成果があがるようにしたい。